

令和 3 年 6 月 22 日現在

機関番号：15101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K01869

研究課題名(和文) 子ども・若者の親密圏に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Research on the Intimate Sphere of Children and Youth

研究代表者

大谷 直史 (OTANI, Tadashi)

鳥取大学・教育支援・国際交流推進機構・准教授

研究者番号：50346334

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：多くの子どもの貧困研究が明らかにしてきた通り、本研究においても豊かな親密圏の存在が、子ども・若者の格差を形作っていた(鳥取市調査)。親密圏としての家族は、一方で格差を再生産することに貢献している。そこで本研究では、放課後児童クラブや定時制・通信制高校等の可能性について検討した。前者はその活動内容から3つの類型(生活型、規律型、消極型)に分けることができ、なかでも生活型に分類されたクラブに親密圏を代替・補完する機能があることを示した。また後者は5つの類型(順社会層、非社会層、複合層、貧困層、反社会層)に分類され、多様に周縁化された若者の居場所として機能していることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

格差の再生産構造を示してきた子どもの貧困研究においては、その解消のための方策が課題となっている。本研究では、経済的・文化的資本の子どもに及ぼす影響を明らかにしつつ、保護者・子どもにとっての社会関係資本(とりわけ親密圏)に着目した。家族に一元化している親密圏であるが、放課後児童クラブや定時制・通信制高等学校等に家族機能を代替・補完する役割が存することを定量的に示し得たことで、格差解消に向けた施策を検討することができる。さらに類型化を通して分析することで、より効果的な介入が可能となることも期待される。また継続的な調査を実施することで、格差の変動も明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：As many child poverty studies have revealed, in this study the existence of a rich intimate sphere shaped the disparity between children and youth (Tottori City Survey). The family as an intimate sphere, on the other hand, contributes to the reproduction of inequality. Therefore, in this study, we examined the possibilities of after-school children's clubs and part-time and correspondence high schools. The former can be divided into three types (living type, discipline type, and passive type) according to the activity content, and it was shown that the clubs classified into the living type have the function of substituting and complementing the intimate sphere. In addition, the latter is classified into five types (normal social layer, non-social layer, complex layer, poverty layer, and anti-social layer), and it is clarified that it functions as third place for young people who are variously marginalized.

研究分野：教育学

キーワード：親密圏 子どもの貧困 放課後児童クラブ 定時制・通信制高校

1. 研究開始当初の背景

「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の制定(2013年)等、「子どもの貧困」に対する関心が高まりを見せている。貧困の要因に関して経済的格差、文化的格差の影響については一定の蓄積が見られるが、子ども・若者の社会関係資本に関わる研究はまだ少ない。特に親密圏(家族)に関わる社会関係資本は、子どもの成育にとって欠かすことのできないものであるにもかかわらず、その範囲の広さから幼児期から青年期までを見通した総合的な研究はない。まず子ども・若者にとっての親密圏の布置状況を、質的・量的側面から明らかにすることが必要不可欠である。

現状把握にとどまらず、その連鎖を食い止める方が模索されてもいる。研究代表者らが研究してきた保育所や放課後児童クラブなどの子育ての社会化もその方策の一つであるが、それらサービスを選択する主体として家庭に子育ての「第一義的責任」が押し付けられるなど、子育ての私事化、自己責任化が進み、かくして連鎖は止まらない。ゆえに単なる子育ての社会化(商品化)の進展だけでは、これら諸問題の解決には結びつかない。であるならば、いかなる社会化が子どもの格差を是正するのか、そのあり方の検討が求められている。

2. 研究の目的

「子どもの貧困」問題を考える際には、経済的・文化的な格差ばかりではなく、社会関係とりわけ親密な関係性(親密圏)の格差を考慮することが必要である。その中核を担う家族は流動化し、ペアレントクラシーとも称される家族間格差が生じる中で、子育てにおいては家族支援、児童・青年期においては居場所や承認の必要性が語られる。本研究ではまず、(子ども・若者にとっての)親密圏概念を検討し明確化した上で、幼児期から青年期までの実態を明らかにし、発達や成長との関連を実証的に明らかにすることを目的とする。その上で、家族に閉じられない親密圏の具体的なあり方を、保育所、学童保育所、学校、青少年施設などに探り、親密圏を保証する物的・質的諸条件、とりわけ支援者のかかわり方を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 子ども・若者の親密圏概念の構築においては、関連資料の収集・分析、専門家からの聴取を進めるとともに、支援者および子どもに対する聞き取りおよび参与観察を通して、支援者に固有の態度・技能を明らかにする。

(2) 鳥取市を事例として、5歳児から中学生及びその保護者を対象とする質問紙調査を行い、格差の現状と規定要因を明らかにする。

(3) 親密圏という観点から子ども・若者の支援施設等を評価し、各領域での類型化をしながら、全国的な質問紙調査によりその布置状況を量的に明らかにする。調査対象は、放課後児童クラブ及び定時制・通信制高校とする。

4. 研究成果

(1) 子どもの貧困状況及び規定要因の析出

鳥取市子どもの成育環境調査(概要は表1)では、所得階層を3区分し、相対的貧困層(所得階層Ⅰ)では、家族旅行の経験において大きな格差があることが分かった(「行く」と回答したのは、所得階層Ⅲが85%であるのに対し、所得階層Ⅱで68%、所得階層Ⅰでは51%)。子どもの所有する物(PC、スポーツ用品、勉強机等)では差が見られず、現代日本においては物品の所有よりも社会経験あるいは保護者との関係性に格差が現れている。

表1. 調査概要(鳥取市2016)

調査時期	2016年8月	調査方法	郵送自記式		
調査対象	5歳児の保護者	小学校3年生と保護者	小学校6年生と保護者	中学校3年生と保護者	総計
対象家庭数	899	900	900	899	3598
回収数(回収率)	358(39.8%)	293(32.6%)	276(30.7%)	246(27.4%)	1173(32.6%)

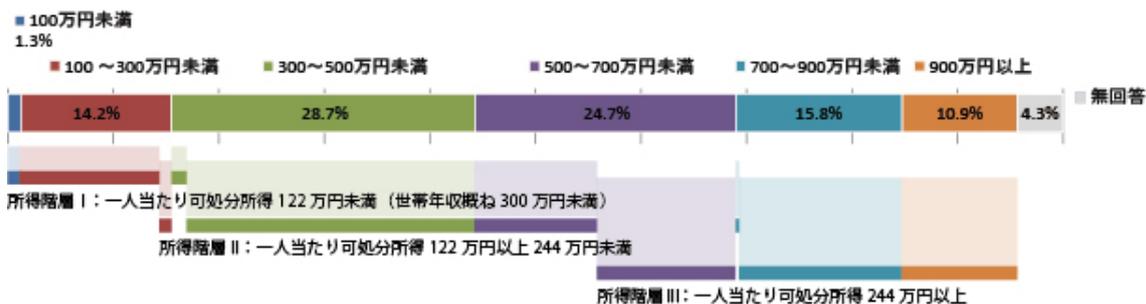


図1. 所得階層区分

また習い事や通塾状況も所得階層の影響が強く、とりわけ進学希望（子ども）と進学期待（保護者）においては保護者の学歴の影響も加わり大きな差となった。

社会関係資本は経済的・文化的資本と独立した影響力を持っており、「がんばればむくわれる」と思う割合や毎日の生活の楽しさを高める要因となっていることが明らかとなった（図2）。

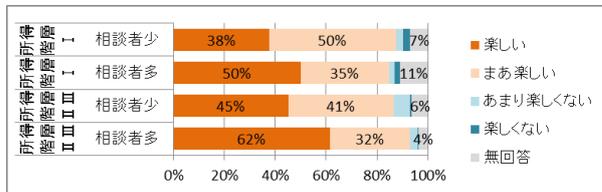


図3. 所得階層別相談者の多寡による生活の楽しさ

### (2) 放課後児童クラブの親密圏としての可能性

親密圏に格差がある場合、その親密圏を代替・補充することは可能だろうか。またそうして提供される親密圏ではいかなるかわりが生じているのか。その可能性を放課後児童クラブに探る調査を実施した（2018年2月、2000か所を対象として、回答者数は施設調査464票（回収率23.2%）、指導員（支援員）調査1,649票（同20.6%））。放課後児童クラブをその活動内容によって類型化（活動層、生活層、規律層、非活動層）し、そこでの指導員のあり方を検討した。生活層に分類されたクラブでは子どもからニックネームで呼ばれる関係性が多く（図4）、またその是非はともかくも勤務時間外でのかわりもある。

家族をめぐる諸問題を解決するオルタナティブとして親密圏が語られるわけだが、それが単に家族機能の一部の外部化にとどまるのではなく、家族とは独立した固有性を持ちえない限り家族の垂流でしかない。児童養護施設や数多くの子育て協同の取り組み、近年増加している子ども食堂などにも同様のことが言える。その際、なんらかの集団性を活かした活動が重要であることが示唆された。

### (3) 定時制・通信制高校の役割

周縁化された若者にとっての親密圏を検討するため、全国すべての定時制・通信制高校の全国調査を行った（定時制高校277校（回収率44.3%）、通信制高校74校（同30.7%））。定時制・通信制高校は、従来の勤労青年の教育機関という役割から周縁に追いやられた若者の教育機関、あるいは居場所として機能している。それぞれの高校は置かれた地域の状況によって、また部編成によって類型化される。本調査では教員に対して生徒の様子を尋ねた設問から、「順社会層、非社会層、複合層、貧困層、反社会層」の5類型にまとめて分析を行った。図6の通り、通信制では非社会層の割合が高く、近年不登校経験者の進学先となっていることが推察される。また定時制はその部編成で様相が異なり、伝統的な1部制では「順社会層」の割合が高く、多部制で「複合層」が多く困難な状況が推察される。また高校のなかでも、保健室、図書室、職員室が生徒の居場所となっている様子が見られた。

### (4) 子どもの貧困状況4年間の変化

1996年調査とほぼ同様の結果が得られ、所得階層によって通塾、習い事、学習理解、進学期

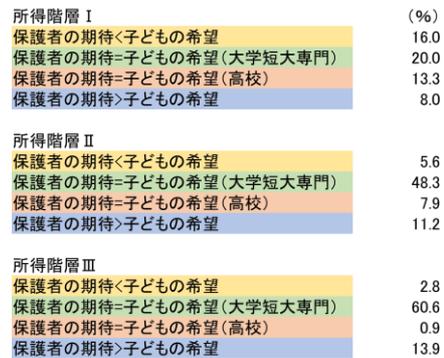


図2. 所得階層別進学希望と進学期待の差

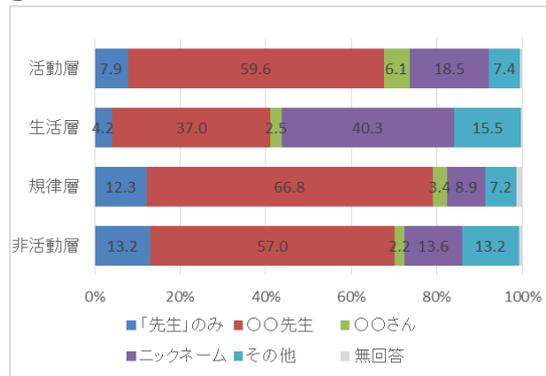


図4. クラブ類型と指導員の呼び名

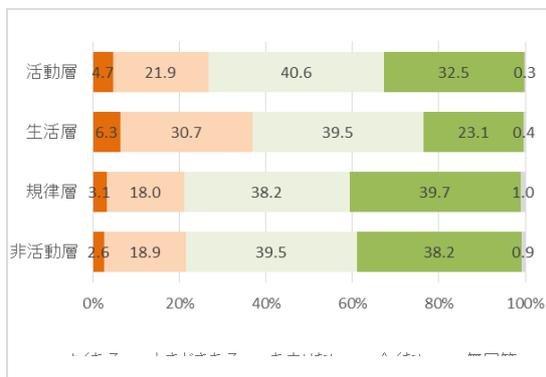


図5. クラブ類型と勤務時間外の関わり

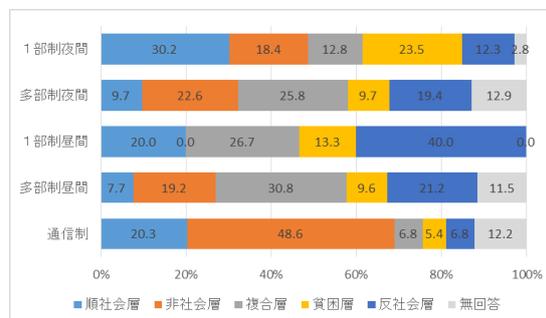


図6. クラブ類型と指導員の呼び名

待（保護者）、進学希望（子ども）、家族旅行の経験、子どもの家事手伝い（所得が低いほど手伝う）、「がんばればむくわれる（なんとかなる）」と思う割合（所得階層が低いほど思わない）等に関連が見られた。

表 2. 調査概要（鳥取市 2020）

調査時期	2020 年 11～12 月		調査方法	郵送自記式	
調査対象	5 歳児の保護者	小学校3年生と保護者	小学校6年生と保護者	中学校3年生と保護者	総計
対象家庭数	723	905	884	758	3270
回収数(回収率)	464(64.2%)	417(46.1%)	402(45.5%)	277(36.5%)	1560(47.7%)

相談できる人や子どもと保護者の関わりが、毎日の生活を楽しむことにつながることも確認されているが、それが進学希望の格差を止めるわけではない。その意味で家族に代わり得る親密圏の創出は、子どもの貧困を解決はせず、むしろ甘受するために機能してしまう可能性もある。もちろん経済的貧困は分配の問題であるから、それを親密圏の充実によって改善しようとすることは邪道であるのかもしれない。ならば親密圏は幸福感や自己肯定感などが高まることをもって評価すべき事柄である。しかしそれにとどまらない効果を、施設調査とも関連付けながら検証する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 大谷直史・柿内真紀	4. 巻 11
2. 論文標題 現代における定時制・通信制高校の意義と役割意識 : 2019年度全国高等学校定時制・通信制課程調査よ り	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育研究論集	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Yuki Matsumoto, Yuma Ishimoto & Yu Takizawa	4. 巻 118
2. 論文標題 Examination of the effectiveness of Neuroscience-Informed Child Education (NICE) within Japanese School Settings	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Children and Youth Services Review	6. 最初と最後の頁 105405
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.chilidyouth.2020.105405	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Chizuko Nishida, Yuma Ishimoto, Yu Takizawa, Taiichi Katayama, & Yuki Matsumoto	4. 巻 2(2)
2. 論文標題 Preliminary evidence for the reliability and validity of the Stirling children's well-being scale (SCWBS) with Japanese children.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Research Open	6. 最初と最後の頁 100034
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijedro.2021.100034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 山根隆宏・石本雄真・松本有貴・辻井正次	4. 巻 18(2)
2. 論文標題 自閉症スペクトラム障害児の感情調整に関する介入プログラム (PEACE) の開発 支援合宿における予備的 検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 自閉症スペクトラム研究	6. 最初と最後の頁 85-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yu Takizawa, Judith Murray, Matthew Bambling, Yuki Matsumoto, Yuma Ishimoto, Takahiro Yamane, & Sisira Edirippulige	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 Online training for psychotherapists in Asian contexts: Advantages, challenges, and effective features	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Contemporary Education and Communication Technology	6. 最初と最後の頁 49-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石本雄真	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 行動的な問題の背景にある「不安障害」と不安への対処法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊 実践障害児教育	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柿内真紀	4. 巻 10
2. 論文標題 ブッククラブの可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育研究論集	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷直史・柿内真紀・石本雄真	4. 巻 9
2. 論文標題 学童保育指導員の仕事と役割に関する質問紙調査報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鳥取大学教育研究論集	6. 最初と最後の頁 59-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柿内真紀	4. 巻 9
2. 論文標題 モニタリング報告書にみるEU加盟国における早期離学の状況	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鳥取大学教育研究炉修	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷直史・畑千鶴乃	4. 巻 8
2. 論文標題 「鳥取市子どもの成育環境調査」報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育研究論集	6. 最初と最後の頁 101-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 米嶋美智子・福田美恵子・大谷直史	4. 巻 7
2. 論文標題 鳥取T小学校の視力低下に関する調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育研究論集	6. 最初と最後の頁 95-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 石本雄真
2. 発表標題 対人関係のあり方を揺さぶる 適応指導教室での不登校対応
3. 学会等名 日本教育心理学会第58回
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西中華子・石本雄真
2. 発表標題 心理的適応の高低によって居場所のとらえ方は異なるのか 抑うつレベルごとの検討
3. 学会等名 日本教育心理学会第58回
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

鳥取市子どもの未来応援計画（子どもの生育環境調査部分） <a href="http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1492161148566/activesqr/common/other/58f094da002.pdf">http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1492161148566/activesqr/common/other/58f094da002.pdf</a>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥野 隆一  (OKUNO Ryuichi)  (10437519)	佛教大学・社会福祉学部・教授    (34314)	
研究分担者	柿内 真紀  (KAKIUCHI Maki)  (70324994)	鳥取大学・教育支援・国際交流推進機構・教授    (15101)	
研究分担者	石本 雄真  (ISHIMOTO Yuma)  (90612309)	鳥取大学・教育支援・国際交流推進機構・講師    (15101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------